

映画のバリアフリー字幕、副音声をスマホで

映画の音声に同期して、字幕、副音声を再生します。

映画・映像のバリアフリー視聴拡大に取り組む、NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター（以下、MASC）と、オランダCivolution社の音声電子透かしによるセカンドスクリーン・ソリューション「SyncNow」の販売・サポートを行う、アイティアアクセス株式会社は、スマホのアプリ「おと見」（MASC開発、iOSおよびAndroidOS対応）を使って、映画館のスピーカーから流れる音声を拾って情報保障を行うサービスを映画館で開始します。

映画本編の音声に、「SyncNow」を使って、作品識別情報とタイム情報を埋め込み、スマホアプリ「おと見」と同期させてバリアフリー字幕や多言語字幕、及び視覚障害者向け副音声等をスマホやタブレットPCに送出する仕組みです。

国内でも普及が進むスマートフォンとアプリをユーザーインターフェイスとして活用することで、より多くの方が手軽に情報保障を受けることができる画期的なサービスです。

バリアフリー映画の第一段として、劇場公開作品「渚のふたり」にて、映画館でiPod touchの貸出を行い、必要とされる方に英語字幕を表示、視覚障害者用副音声を再生させるサービスを行います。今後の展開として、スマホアプリ「おと見」を一般配信し、映画のバリアフリー化を推進することを計画しています。

*「渚のふたり」では、色分けされたバリアフリー字幕を劇場のスクリーンに表示します。

劇場公開作品 **「渚のふたり」**
02月15日（土）より「シネマート新宿」
02月22日（土）より「シネマート心斎橋」
渚のふたり（<http://nagisanofutari.jp>）

背景

芸術へのアクセス保障を含む「障害者権利条約」が批准決定しました。超党派による「障害者の芸術文化振興議員連盟」も設立され、映画・映像のバリアフリー化についても本格的な議論が始まっています。このシステムを使うことで劇場設備は最小限で対応可能です。耳が聞こえない、聞こえにくい方には字幕、目が見えない、見えにくい方には副音声が必要です。また超高齢社会、そして2020年東京オリンピックに向かう日本において、外国人観光客の増加も想定され、この動きがユニバーサルデザインにつながっていきます。

特長と将来性

- ・バリアフリー字幕の他、英語・中国語など多言語の字幕、手話等の映像、視覚障害者用副音声等の音声等、あらゆる情報の配信がスマートフォンなどのセカンドスクリーンで同時に対応可能。
- ・ヘッドマウントディスプレイを使用することでスクリーンの前に字幕が浮いて見える。
- ・電波や無線LANを一切使用しないため、映像や音声を流せる装置と携帯端末さえあれば、日本全国、どこでも、誰でも利用可能。
- ・携帯端末を持込可とすれば、映画館の設備投資は不要。
- ・映画館の他、博物館・美術館の映像展示物、アトラクション等への対応も可能。

<本件に関するお問い合わせ先> **（1月29日（水）19時 一般試写会 取材可能）**

情報保障サービス及びバリアフリー上映会に関するお問い合わせ
NPOメディア・アクセス・サポートセンター 事務局長 川野浩二
TEL：03-5937-2230 / FAX：03-5937-2233
E-mail：info@npo-masc.org

SyncNowに関するお問い合わせ
アイティアアクセス株式会社 営業部 福田美穂
TEL：045-474-9095 / FAX：045-474-8823
E-mail：info@itaccess.co.jp